

用語集 Rev.3.10

—あ—

RCサーボ（あーるしーさーぼ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。位置決めコントローラが内蔵されたアクチュエータ。受信機からの信号を受け動作する。

→ ラジオコントロール機器

アニュアルプライズ（あにゅあるぷらいず）

表彰の一部門。毎回必ず設けられる賞の総称。アニュアルプライズとして設けられる賞はレスキュー工学大賞、総合優勝、ベストロボット賞、ベストチームワーク賞、ベストプレゼンテーション賞、およびベストテレオペレーション賞がある。

イエローフラグ（いえろーふらぐ）

反則行為に対する警告。ロボットに対して与えられる。イエローフラグを2回受けると、レッドフラグとなる。

→ レッドフラグ

異議（いぎ）

- （1）競技中の審判の判定に対する質問行為の回答に対して、異議申し立てすることができ
る。ただし、異議に基づいた裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競
技結果に反映あるいは再試合を行うことはない。
- （2）ロボット検査の検査員の判定に対して、異議を申し立てることはできない。

→ 裁定

一時帰還（いちじきかん）

レスキューロボットが自走してベースゲートを通過し、ロボットベースに戻ることを一
時帰還と呼ぶ。

→ ロボットベースに戻る

一般審査員（いっぱんしんさいん）

**審査員のうち、レスキュー関係の専門知識を有する者以外から広く一般に募り、審査員と
する者。**審査員はレスキューロボットコンテストの開催趣旨およびフィロソフィーに則り評
価を行う。

→ 審査員、専門審査員

引率者（いんそつしゃ）

学校、学校のクラブ等の組織で参加する場合、スタッフメンバーの管理者として引率者を登録することができる。引率者の登録はスタッフメンバーの登録時にあわせて行う。引率者はスタッフメンバーの人数には含まれないが、スタッフメンバーと同様、制限されるエリアに入ることができる。

ウェイティングサークル（うえいていんぐさーくる）

実験フィールド内でヘルパーが待機する場所。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的が無い場合、ヘルパーはウェイティングサークル内にいなければならない。

エキジビション（えきじびしょん）

競技会期間中に正規の競技ではないが、競技に準じた形で行われるレスキュー活動等。評価の対象にはならない。

応募（おうぼ）

参加チーム募集に応じて参加希望者が応募する。参加応募時にはレスキューロボットコンテスト参加申込書の提出を以て応募とする。

→ 規定 3. 2. 応募

オペレータ（おぺれーた）

チームメンバーの担当の一つ。レスキューロボットを操縦する担当または担当者を言う。

—か—

開催告知（かいさいこくち）

各回のレスキューロボットコンテストにおける最初の活動。実行委員会は、参加チーム募集開始の1ヶ月以上前に開催告知を行わなければならない。

開催趣旨（かいさいしゅし）

フィロソフィーの概略を平易な言葉で簡単にまとめ、また、各回の競技の概略を解説したもの。各回毎に改訂され、募集開始時に募集要項にて告知される。

→ フィロソフィー

確定ポイント（かくていぼいんと）

反則には該当しないが、悪質な行為が認められた場合、50点を限度として審判団が合計

ポイントを減点することができる。審判団による減点を加味した後のポイントを確定ポイントと呼ぶ。

隔壁（かくへき）

競技会場に設けられ、コントロールルームと実験フィールドとを隔てる壁。ベースゲートが設けられている。

可動ガレキエリア（かどうがれきえりあ）

救助ブロック内のうち、固定されていないガレキおよびレスキューダミーが配置されるエリア。ブロックを田の字形に区切った1／4のエリアである。

壁（かべ）

ハイウェイ、被災区域の外側に設けられる。高さ 100mm。

ガレキ（がれき）

棒状ガレキ、板状ガレキがある。また、配置される場所によって路上ガレキ、ブロック内ガレキに分けられる。単体のガレキを意味する場合と、集合体としてのガレキを意味する場合がある。

勧告（かんこく）

試走会において、実行委員会は各チームにおける競技会への準備状況を確認する。その結果、実行委員会がチームの準備状況が著しく遅れていると認める場合は、当該チームに対して勧告を行う。チームは勧告に従わなければならない。

機（き）

レスキューロボットを数える単位。1機とは書類審査の登録を基本とする。1機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を1台と呼ぶ。

→ 台

規定適合性（きていてきごうせい）

書類審査において採択を受けたチームが提案したロボットのアイディア、応募メンバーが規定に抵触している、あるいは抵触することが予想される場合規定適合性通知書にて、その旨通知を受ける。

キャプテン（きゃぷてん）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない担当。主な役割は、チームの

指揮を執り、チームを統括すること。担当者を意味する場合もある。

キャプテン会議（きゃぶてんかいぎ）

試走会および競技会期間中、審判団が必要に応じて開催する。全チームのキャプテンは出席しなければならない。試走会および競技会進行の手順確認、また、各チームが重大な違反を起こさないよう、注意事項の伝達を行う。キャプテン会議にてチームメンバー登録用紙が配布される。

救出（きゅうしゅつ）

レスキュー活動においてレスキューダミーをガレキの中から救い出すこと。

救出完了（きゅうしゅつかんりょう）

レスキューダミーが居た救助ブロックから道路上へ完全に出た時点を救出完了とする。
レスキューダミーが空中にいる場合は床面への投射影で考える。

救助（きゅうじょ）

→レスキュー

救助ブロック（きゅうじょぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つで、可動ガレキエリアが設けられているブロック。ブロック内は「私有地」と想定されている。可動ガレキエリア内にレスキューダミーが置かれるのでこのように呼ばれる。

競技（きょうぎ）

競技会場へ入ってから出てくるまでの一回の競技と見なす。競技には、プレゼンテーション、作戦会議、作戦紹介、レスキュー活動、活動報告の他、出動準備のための電波機器の設定等も含まれる。

競技会（きょうぎかい）

レスキューロボットコンテストの中心的な催し。実験フィールドが設置された競技会場でレスキューロボットコンテストの競技を行う。3日間開催され、第1日目は関係者以外非公開、第2日目、第3日目は一般公開とする。

競技会場（きょうぎかいじょう）

競技会を行う会場。競技会場は主に実験フィールド、隔壁、コントロールルームで構成される。

緊急停止スイッチ（きんきゅうていしすいっち）

レスキューロボットのエネルギー源を遮断するスイッチ。ロボット上部等、わかりやすくかつ操作しやすい位置に取り付けなければならない。特段の理由がない限り緊急停止スイッチは実行委員会が指定したものとする。

クリスタル（くりすたる）

ラジオコントロール機器が使用するバンドを決める発振子。クリスタルを交換することにより、ラジオコントロール機器が使用するバンドを変更する。クリスタルにはバンドの番号が表記されている。プロポ用と受信機用の一組を対で使用する。

現場（げんじょう）

レスキュー活動において救助を必要とするレスキューダミーが埋まっている場所。

現場到着（げんじょうとうちゃく）

レスキュー活動において、レスキューロボットが現場へ至ること。チームのいずれかのロボットが、レスキューダミーの居る救助ブロックの可動ガレキエリアにあるガレキまたはレスキューダミーに触れた時点とする。

工具等（こうぐとう）

レスキューロボットの調整、部品交換等を行うための道具。一般的な工具であっても、レスキューロボットに取り付けて出動する場合は付属品となる。

合計ポイント（ごうけいぽいんと）

一回の競技におけるポイントの合計を合計ポイントと呼ぶ。ファーストミッションおよびセカンドミッションにおいてはフィジカルポイントおよびミッションポイントの合計、ファイナルミッションにおいてはさらに審査員ポイントを加えた合計となる。

固定ガレキエリア（こていがれきえりあ）

救助ブロック内のうち、固定されているガレキが配置されるエリア。ブロックを田の字形に区切った3／4のエリアである。

コンテスト（こんてすと）

募集開始から、書類選考、試走会、競技会等、レスキューロボットコンテスト実行委員会が主催するすべての催しの総称として用いる。

→ **競技会**

コントロールルーム（こんとろーるむ）

競技会場に設けられ、チームメンバーがレスキューロボットの操縦などを行う部屋。隔壁で実験フィールドと区分けされており、震災被害を受けていない地域にあると想定されている。ヘリテステージ、ロボットベース、各種カメラのモニターテレビ等が設置されている。ヘルパー以外のチームメンバーは競技中コントロールルームから出てはいけない。

ーさー

再検査（さいけんさ）

一度不合格になったレスキューロボットのロボット検査を再度受けること。レスキューロボット1機につき、一度だけ認められる。一度目の検査において検査員と協議の上、再検査で合格の見込みがあるものについてのみ再検査を申請することができる。

採択（さいたく）

書類審査において参加チームの応募アイデアが選考を通過すること。実行委員会は書類審査の終了から2週間以内に、チームへ通知を行わなければならない。

裁定（さいてい）

異議申し立てに対して実行委員長が下す。裁定は最終判断であり、裁定に対して異議を申し立てることはできない。ただし、裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競技結果に反映あるいは再試合を行うことはない。

作戦会議（さくせんかいぎ）

競技会でレスキュー活動を行う前に設けられる手順の一つ。ヘリテレのカメラ映像、観察をもとに、ガレキ内に取り残された被災者を模擬した人形であるレスキューダミー救助作戦を立てる。

作戦紹介（さくせんしょうかい）

競技会でレスキュー活動を行う前に設けられる手順の一つ。立案した作戦をスピーカーが紹介する。

参加チーム募集（さんかちーむぼしゅう）

実行委員会は、各回のレスキューロボットコンテストにおいて競技会への参加を希望するチームを募集する。参加チームの募集開始において、各回のコンテストの開催趣旨が告知される。募集期間は2ヶ月以上とする。

試走会（しそうかい）

競技会に先行し、競技会とほぼ同一な競技会場でレスキューロボットを試運転する会。
原則として試走会参加が競技会出場の条件である。開催期間は1日間。

実験フィールド（じっけんふいーど）

競技を行うために競技会場に設置され、レスキューロボットがレスキューダミーを救助する活動を行う場所。実験フィールドの中にはハイウェイ、被災区域が設置される。

実行委員（じっこういいん）

レスキューロボットコンテスト実行委員会の構成員。

実行委員会（じっこういいんかい）

レスキューロボットコンテスト実行委員会の略称。

実行委員長（じっこういいんちょう）

レスキューロボットコンテスト開催に関する最高責任者。レスキューロボットコンテスト実行委員会の長。審判の判定に対して異議を受けつけた場合裁定をする。またロボット検査の保留事項については全検査員および実行委員長が協議を行う。

質問行為（しつもんこうい）

- （1）審判の判定に対してミッション終了後、チームのキャプテンは主審に対して質問することができる。
- （2）審査員の自チームの評価についてその評価結果の理由に限り質問することができる。
ただし、ミッション終了後キャプテンが主審に申し込む。
- （3）本規定に関する質問は電子メールでのみ受け付ける。

問い合わせ電子メールアドレス Q-rule@rescue-robot-contest.org

指導（しどう）

中間審査において、実行委員会が各チームの競技会へ向けての準備状況の審査を行い、準備不十分と判断した場合、実行委員会は各チームを指導することができる。チームが指導に従わない場合、チームは不採択となる場合がある。

主審（しゅしん）

競技中の全権を持ち、副審を指揮・統括する。

出動（しゅつどう）

レスキューロボットがロボットベースからベースゲートを通り、救出現場へ向かうこと。

受信機（じゅしんき）

- （１）ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。プロポからの操縦指令を受信し、RCサーボへ信号を出力する。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。
- （２）無線カメラからの信号を受信し、モニターテレビへ出力する。チャンネルを変更するためには、受信機本体を変更する。

条件付き合格（じょうけんつきごうかく）

ロボット検査において、規定に不適合である機能を競技中使用しないことを条件とした合格。

書類審査（しょるいしんさ）

運営の都合上、応募書類を基に実行委員会において書類審査にて第1次選考を行う。書類審査において採択されたチームのみ中間審査、試走会、そして競技会へ進むことができる。実行委員会は応募締め切りから1ヶ月以内に、書類審査終了しなければならない。

→ 規定 3. 3. 書類審査

審査員（しんさいん）

同数程度の**一般審査員**および**専門審査員**で構成される。審査員はレスキューロボットコンテストの開催趣旨およびフィロソフィーに則り審査員ポイント进行评估する。

→ 一般審査員、専門審査員

審査員ポイント（しんさいんぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。審査員が評価する。一つのチームに対する一人の審査員あたりポイントの満点は、一般審査委員より専門審査委員に多く配点する。主にレスキューロボットコンテストの主旨に合致している度合いを反映するためのポイント。

審判（しんぱん）

競技が規定に則り行われているかを判定する。主審および副審を設ける。

審判団（しんぱんだん）

主審および副審で構成される。

スタッフメンバー（すたっふめんばー）

試走会および競技会においてチーム構成員のみが出入りを許可されるエリアに入ることができる。試走会および競技会の開催日1週間前に登録しなければならない。チームメンバーは引率者を除くスタッフメンバーから選抜される。上限を12名とする。

→ 応募メンバー、チームメンバー

スピーカー（すピーカー）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない担当。レスキューロボットおよび戦術のプレゼンテーション、作戦紹介、およびレスキュー活動報告を行う。

セカンドミッション（せかんどみっしょん）

競技会で第二に行われるミッション。ファーストミッションの結果により参加チームが決定される。フィジカルポイントおよびミッションポイントの合計で評価する。獲得したポイントが高い順に2チームがファイナルミッションへ進む。ただし、セカンドミッションで獲得したポイントは総合ポイントには加算されない。

センサ内蔵ダミー（せんさないそうだみー）

→ レスキューダミー

センサモード（せんさもーど）

ダメージインデックスを算定するために通常用いられる方法。レスキューダミーに内蔵されているセンサの値を基にする。

→ フラッグモード

戦術（せんじゅつ）

想定した災害現状から救助を行うためにあらかじめ検討されている方法。

センターライン（せんたーらいん）

道路上に描かれる幅20mmのライン。

全体ミーティング（ぜんたいみーていんぐ）

競技会では第1日目に試走会では午前中に設けられる。運営スタッフ、全参加チームのスタッフメンバーの顔合わせの場ともなる。全参加チームのスタッフメンバー全員が出席しなければならない。競技会および試走会運営上の注意、連絡事項等が実行委員会から伝達される。

専門審査員（せんもんしんさいん）

レスキュー関係の専門知識を有する者から実行委員会が選任する審査員。審査員はレスキューロボットコンテストのフィロソフィーおよび開催趣旨に則り評価を行う。各賞の受賞者選定も行う。

→ 審査員、一般審査員、フィロソフィー、開催趣旨

総合ポイント（そうごうぽいんと）

一回の競技会で行われたファーストミッションおよびファイナルミッションの競技で、各チーム獲得したポイントの合計。

総合優勝（そうごうゆうしょう）

アニュアルプライズの一つ。最も高い総合ポイントを獲得したチームに与えられる。

ーたー

台（だい）

1 機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を 1 台と呼ぶ。

→ 機（き）

タイムインデックス（たいむいんでっくす）

フィジカルポイントを算定するための指標の一つ。レスキュー活動の迅速さを反映する。

ダミヤン（だみやん）

レスキューロボットコンテストの競技で使用するレスキューダミーの呼称。震災でガレキに埋もれた被災者を模した小型の人形。詳細は規定別添4 参照のこと。

→ レスキューダミー

ダメージインデックス（だめーじいんでっくす）

フィジカルポイントを算定するための指標の一つ。レスキューロボットがレスキューダミーをいかに優しく救助できるかを反映する。

→ フィジカルポイント

チーム（ちーむ）

参加チームはフィロソフィーおよび開催趣旨に賛同するものであれば特にその資格を問わない。参加者はレスキューロボットコンテストの進行に合わせ、応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー、として3種類登録する必要がある。応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー、の総称としてチームと呼ぶ場合がある。

チームカラー（ちーむからー）

各チームを識別する際に使用される色。書類審査終了後登録が必要になる。

チーム責任者（ちーむせきにんしゃ）

応募チームの構成メンバーの状況に応じてチーム責任者を登録しなければならない場合がある。チーム責任者はレスキューロボットコンテストに関するチームメンバーの活動、貸与品等に関して責任を持つ者とする。チーム責任者は成人とする。チーム責任者は応募メンバーの人数に算入されない。

チームメンバー（ちーむめんばー）

競技会で競技を行うチームの構成員。単にメンバーと略する場合もある。引率者を除くスタッフメンバーから選抜される。競技会開始前に当日のチームメンバーを登録しなければならない。上限を8名とする。

→ 応募メンバー、スタッフメンバー

チャンネル（ちゃんねる）

- (1) ラジオコントロール機器の操縦自由度のことをいう。例えば、「1チャンネルでレスキューロボットのアームの角度を制御する。」「このラジオコントロール機器は6チャンネルの制御を行える。」など。
- (2) 無線カメラについては使用する周波数に対応する番号のことをいう。例えば、「10チャンネルと13チャンネルの無線カメラは同時に使用できる。」など。

中間審査（ちゅうかんしんさ）

書類審査で採択されたチームは、競技会に向け、ロボット製作、プレゼンテーションの準備、ロボット操縦の訓練等準備を進めなければならない。各チームの進捗状況を確認するために、実行委員会は中間審査を実施する。中間審査は、概ね書類審査と試走会の中間の時期に行われる。

→ 規定3. 5. 中間審査

テストラン（てすとらん）

試走会および競技会第1日目に、競技会で使用する競技会場とほぼ同一な状況でレスキューロボットを操縦し、レスキュー活動の練習を行うことができる。テストランは時間を区切り、全てのチームが行うことができる。ただし、時間帯の指定は実行委員会が行う。

デモ競技（でもきょうぎ）

試走会において、競技会と同じ手順で行う競技をデモ競技と言う。デモ競技を行うチーム

は、プレゼンテーションチェック、ロボットチェック、およびテストランの状況を総合して実行委員会が指定する。デモ競技への出場の指定を受けなかったチームは、デモ競技を見学することが望ましい。

電波管理ブース（でんぱかんりぶース）

電波が競技会場へ影響を与える範囲内においては、実行委員会が指定する機器以外、電波を発信する機器の使用を禁止する。さらに、競技会では各チームが同一の会場でテストラン、競技等を行う。このときの電波の混信による事故を防ぐため、貸与機器のうち、無線カメラおよびラジオコントロール機器のクリスタルが実行委員会の電波管理者に管理されることになる。試走会および競技会期間中を通して競技会場に電波管理ブースが設けられ、一元的に管理される。

電波管理担当者（でんぱかんりたんとうしゃ）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない。キャプテン以外の担当を兼務しなければならない。電波管理担当を担当する者は各チーム1名とする。競技中の電波管理を円滑に行うために、自チームの使用する電波機器の管理を行う。

電波管理担当者会議（でんぱかんりたんとうしゃかいぎ）

試走会および競技会に設けられる。電波管理に関する注意事項を伝達する。

電波機器（でんぱきき）

無線カメラ、クリスタル、ラジオコントロール機器および電波を発生する機器一般を指す。

道路（どうろ）

被災区域内の各種ブロックを囲むように設けられている通路。不整地ブロックを除くブロック内は「私有地」と想定されているが、道路上は「公有地」として想定している。

—な—

特になし。

—は—

ハイウェイ（はいうえい）

実験フィールドおよびコントロールルームの中に設置される。コントロールルームに設置されているロボットベースと実験フィールド内の被災区域を結ぶ通路である。被災している区域と被災していない地域を結ぶ道路を想定している。

搬送（はんそう）

レスキュー活動において、救出されたレスキューダミーをロボットベースへ運ぶこと。

搬送完了（はんそうかんりょう）

レスキュー活動において、搬送されて来たレスキューダミーがベースゲートを完全に通過した時点をもって搬送完了とする。

バンド（ばんど）

ラジオコントロール機器が使用する周波数に対応する番号。周波数と番号の対応については、下記を参照のこと。

40.77MHz	77 バンド、	40.79MHz	79 バンド、
40.81MHz	81 バンド、	40.83MHz	83 バンド、
40.85MHz	85 バンド、		
72.13MHz	17 バンド、	72.15MHz	18 バンド、
72.17MHz	19 バンド、	72.19MHz	20 バンド、
72.21MHz	21 バンド、	72.79MHz	50 バンド、
72.81MHz	51 バンド、	72.83MHz	52 バンド、
72.85MHz	53 バンド、	72.13MHz	54 バンド

被災区域（ひさいくいき）

実験フィールド内のハイウェイを除いた区域。被災区域の中には道路、各種ブロックが設置される。また、ガレキが配置される。

表彰（ひょうしょう）

優秀な成績を収めたチーム、レスキューロボット、メンバーを表彰する。表彰される賞はアニュアルプライズとメモリアルプライズに大別される。

フィジカルポイント（ふいじかるぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。レスキューダミーのダメージを反映する。

ファイナルミッション（ふぁいなるみっしょん）

競技会で最後に行われるミッション。ファーストミッションおよびセカンドミッションの結果により参加チームが決定される。フィジカルポイント、ミッションポイント、および審査員ポイントの合計で評価する。

ファーストミッション（ふぁーすとみっしょん）

競技会で最初に行われるミッション。全ての競技会参加チームが参加することができる。

フィジカルポイントおよびミッションポイントの合計で評価する。獲得したポイントが高い順に参加チームの半数がファイナルミッションへ進む、残りの半数のチームはセカンドミッションへ進む。

フィロソフィー（ふいろそふいー）

レスキューロボットコンテストの最も基本となる考え方、主旨。コンテストのすべてはフィロソフィーに則り計画、開催される。

副審（ふくしん）

主審の指揮・統括下で、主審を補佐しながら競技の進行に務める。コントロールルーム担当とレスキューダミー担当副審を設ける。

不整地ブロック（ふせいちぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つ。「公有地」と想定されている。

不採択（ふさいたく）

- （1）書類審査において参加チームの応募アイディアが選考を通過できないこと。実行委員会は書類審査の終了から2週間以内に、チームへ通知を行わなければならない。
- （2）中間審査においてチームが指導を受けたにも関わらず、チームが指導に従わない場合、実行委員会はチームを不採択することができる。チームが不採択となった場合、チーム責任者あるいはキャプテンは貸与機器を貸与された状態に復帰し、速やかに返却しなければならない。

フラッグモード（ふらっぐモード）

ダメージインデックス算定法の一つ。通常はセンサモードで算定されるが、レスキューダミーのシステムの不調時の緊急避難的な算定法。副審によるブルーフラッグの提示回数を基準とする。

→センサモード

ブラックフラグ（ぶらっくふらぐ）

反則行為に対する試合の没収。ブラックフラグが宣告されたチームは競技を継続することはできない。また、評価を受けることができない。

ブルーフラッグ（ぶるーふらっぐ）

フラッグモードのダメージインデックスの基となる。副審が提示し、提示回数によりフラッグモードのダメージインデックスが算定される。

プレゼンテーション（ぶれぜんてーしょん）

競技会で行われる競技の一つ。スピーカーがチームのレスキューロボットの特徴、戦術を紹介する。担当の専門委員が審査し、もっとも優秀なプレゼンテーションについてベストプレゼンテーション賞を選定する。

プレゼンテーションチェック（ぶれぜんてーしょんチェック）

試走会にて、プレゼンテーションの練習、確認を行う場。

プレゼンテーションファイル（ぶれぜんてーしょんふぁいる）

プレゼンテーションで使用する Microsoft 社製ソフトウェア PowerPoint で製作されたファイル。試走会および競技会に先立って提出する必要がある。

ブロック（ぶろっく）

被災区域内に設置されている、正方形（1,200mm×1,200mm）の区域。ブロックは被災区域内に9カ所ある。

→ 救助ブロック、模型ブロック、不整地ブロック

ブロック内ガレキ（ぶろっくないがれき）

救助ブロック内に配置されるガレキをブロック内ガレキと呼ぶ。

プロポ（ぷろぽ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。操縦装置と送信機が一体となったもの。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。

ベースゲート（ベースげーと）

ベースゲートは隔壁に設けられ、コントロールルームと実験フィールドを結んでいる。ハイウェイ上面からの高さ 450mm、幅 1,200mm。すべてのレスキューロボットはベースゲートを通り出動する。

ベストチームワーク賞（べすとちーむわーくしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門委員が選定する。チームに与えられる。

ベストテレオペレーション賞（べすとてれおぺれーしょんしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門委員が選定する。オペレータに与えられる。

ベストプレゼンテーション賞（べすとぷれぜんてーしょんしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門委員が選定する。スピーカーに与えられる。ただし、ファイナルミッション進出チームのみに受賞資格がある。

ベストロボット賞（べすとろぼっとしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門委員が選定する。ロボットに与えられる。

ヘリテレ（へりてれ）

チームメンバーの担当の一つ。レスキュー活動においてヘリコプターで上空から災害現場を撮影するテレビカメラを模擬し、高所より実験フィールドの撮影、観察を行う。担当者を意味する場合もある。

ヘリテレステージ（へりてれすてーじ）

ヘリテレが高所から実験フィールドの情報収集を行うために使用する台（高さ 600mm）。ヘリテレ以外がステージに登ってはならない。ヘリテレはヘリテレステージ上においてのみヘリテレ用カメラを操作することができる。

ヘルパー（へるぱー）

チームメンバーの担当の一つ。実験フィールドに待機し、リスタートの際にレスキューロボットを取り扱う。競技中他の担当者とのコミュニケーションをとってはならない。担当者を意味する場合もある。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的が無い場合、ヘルパーは実験フィールドに設けられたウエイティングサークル内にいなければならない。

報告会（ほうこくかい）

試走会および競技会最後に行われる。実行委員会と各参加チームの討議のである。試走会または競技会までの各活動に関する意見交換を行う。

—ま—

ミッション（みっしょん）

競技会ではファーストミッション、セカンドミッション、およびファイナルミッションを行う。競技会参加チームはミッションを通して合計2～3回の競技を行う。

ミッションポイント（みっしょんぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。レスキュー活動の達成度合いを反映する。

メモリアルプライズ（めもりあるぶらいず）

表彰の一部門。各回のコンテストの状況に応じて設けられる賞の総称。

無線カメラ（むせんかめら）

レスキューロボットに搭載し、ロボットの操縦に必要となる映像を撮影するためのカメラ。映像は電波で送信される。

模型ブロック（もけいぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つで、ブロック内のすべてのガレキが固定されているのでこのように呼ばれる。ブロック内は「私有地」と想定されている。

モニターテレビ（もにたーてれび）

コントロールルーム内に設置された、映像をモニターする装置。無線カメラのモニター、評価ポイントのモニター、ヘリテレ用カメラのモニター。モニターと省略する事がある。

ーやー

床面（ゆかめん）

競技会場を鉛直上方からみたときに見える面。たとえば実験フィールドでは、道路や各種ブロックおよびガレキの上面となる。いわゆる建築物の床ではない。

ーらー

ラジオコントロール機器（らじおこんとろーるきき）

レスキューロボットを電波で操縦するための装置。プロポ、受信機、RCサーボ等で構成される。プロポおよび受信機に取り付ける一組のクリスタルを取り替えることにより、バンドの変更を行う。貸与機器の一つ。

リスタート（りすたーと）

レスキューロボットが一時帰還できない場合などにおいて、主審の許可を受け、ロボットをロボットベースへ持ち帰り、修理などを実施した後、再度出動することができる。この一連の作業をリスタートと呼ぶ。

リスタート要請スイッチ（りすたーとようせいすいっち）

リスタートを要請する際にキャプテンが操作するスイッチ。キャプテン以外は操作してはならない。

略称（りやくしょう）

短く、言いやすい言葉で表現したチームの名称。通常、チームを呼ぶ際に使用される。

レスキュー（れすきゅー）

レスキューダミーを救うために行う一連の活動、出動、現場到着、救出、搬送を総称して言う。

レスキュー活動（れすきゅーかつどう）

競技会で行われる中心的な競技。立案した作戦に基づき、レスキューダミー救助作戦を遂行すること。

レスキュー活動の完了（れすきゅーかつどうのかんりょう）

すべてのレスキューダミーを搬送完了した時点をも、レスキュー活動の完了とする。

レスキュー活動報告（れすきゅーかつどうほうこく）

競技会でレスキュー活動を行った後に設けられる手順の一つ。スピーカーが、ロボットの行った活動を総括すること。

レスキュー工学大賞（れすきゅーこうがくたいしょう）

表彰の一つ。実行委員長が選定する。コンテスト全てを通し総合的に判断される。レスキューロボットコンテストで最も意義深い賞。チームに与えられる。

レスキューダミー（れすきゅーだみー）

災害等で罹災した、あるいは負傷した人を模した人形。人の感覚を模擬した各種センサを内蔵し、センサ状況を遠隔モニターすることができる。「センサ内蔵ダミー」と呼ぶことがある。「ダミー人形」とは呼ばない。レスキューロボットコンテストで使用するレスキューダミーを特に「ダミヤン」と呼ぶ。

→ ダミヤン

レスキューロボット（れすきゅーろぼっと）

レスキューロボットコンテストに応募、出場するロボット。単にロボットと省略することがある。

レスキューロボットコンテスト（れすきゅーろぼっとこんてすと）

震災被災地における人命救助を命題としたロボットコンテスト。レスキューロボットコンテスト実行委員会が主催する。開催告知から貸与品の返却までの全ての活動を通して一回のコンテストと考える。レスコンと省略して呼ぶ場合がある。

レスキューロボットコンテスト実行委員会（れすきゅーろぼっとこんてすとじっこういいんかい）

レスキューロボットコンテスト実行委員会の主催者。実行委員会と省略して呼ぶ場合がある。実行委員会の長を実行委員長とする。実行委員と表記した場合、実行委員会の構成員を意味する。

レスキューロボットの付属品（れすきゅーろぼっとのふぞくひん）

一回のレスキュー活動において、レスキューロボットに取り付ける部品等一式。レスキュー活動開始時において、ロボットベースに配置されていなければならない。レスキュー活動開始時にロボットベースに配置されていない部品は、付属品として認められない。

レスコン（れすこん）

レスキューロボットコンテストの略称。

レスコンアニュアルプライズ（れすこんあにゅあるぷらいず）

→ アニュアルプライズ

レスコンメモリアルプライズ（れすこんめもりあるぷらいず）

→ メモリアルプライズ

レッドフラグ（れっどふらぐ）

反則行為に対する退場。レスキューロボットに対して与えられる。チームのすべてのロボットがレッドフラグの宣告を受けると、チームにブラックフラグが宣告される。

路上ガレキ（ろじょうがれき）

道路上に配置されるガレキを路上ガレキという。単一のガレキを意味する場合と集合体のガレキを意味する場合がある。

→ **ブロック内ガレキ**

ロボットチェック（ろぼっとちえっく）

競技会へ行うロボット検査の予行として試走会で行う。ロボットチェックはロボット検査の手順確認を行うのみで、ロボットが完成している場合においてもロボットについて合格、不合格の判断は行わない。

ロボット検査（ろぼっとけんさ）

競技会へ出場するレスキューロボットが、規定などに適合しているか否かを判断するために行う検査。競技に参加するすべてのロボットはロボット検査を受けなければならない。

ロボット調整場（ろぼとちようせいじょう）

競技会2日目、3日目にラジオコントロール機器を使用してロボットの機能を点検する必要がある場合、ロボット調整場にて点検することができる。ロボット調整場の使用にあたってはあらかじめ各チームの使用時間の指定は行わない。各チームが必要に応じて使用できる。ロボット調整場では無線カメラを使用した調整を行うことはできない。ただし、ロボット調整場は一般観客にオープンとなる。

ロボット番号（ろぼとばんごう）

レスキューロボットを識別するために用いられる番号。競技に参加するすべてのロボットに1から順に割り当てなければならない。

ロボットベース（ろぼとべーす）

レスキューロボットが出動する際に配置される区画（1,200mm×1,200mm）。空間的に指す場合は、区画の表面から鉛直上方空間を言う。一時帰還およびリスタート時も同様にロボットベースから出動することとなる。ロボットベースに戻ったロボットに限り、チームメンバーが触れることができる。

ロボットベースに戻る（ろぼとべーすにもどる）

ロボットの接地面がロボットベース上にあること、かつ、ロボットが完全にベースゲートを通過していることをもってロボットベースに戻ったと言う。

—わ—

特になし。

以 上